

# 「福岡市環境基本計画（第四次）素案策定作業部会」報告

## 1 開催日時等

### （１）開催日時

令和 7 年 12 月 20 日（金） 16：00～17：30

### （２）開催場所

TKP ガーデンシティ PREMIUM 天神スカイホール ウェストルーム

### （３）議題

・第四次計画の骨子案について

### （４）出席者（出席者 9 名）

松山 倫也	委員（部会長）	萩島 理	委員
猪野 猛	委員	林 灯	委員
菊水 之恵	委員	久留 百合子	委員
小出 秀雄	委員	山内 勝也	委員
中山 裕文	委員		

## 2 議題「第四次計画の骨子案について」

資料 2-2～2-6

### （１）事務局からの説明概要

福岡市環境基本計画（第四次）における各施策の指標や方向性など、次期計画の骨子案について説明を行った。

### （２）審議内容

事務局の説明後、各委員より、次期計画のめざすまちの姿・行動指針や骨子案の構成、成果指標等について、事務局への確認や意見があった。

議論を踏まえ、めざすまちの姿については案のとおりとし、その他骨子の構成等については、事務局と調整のうえ、環境審議会総会に報告することとした。

### （３）主な意見と考え方等

#### 【めざすまちの姿】

意 見	意見に対する事務局の考え方等
修正案のとおりでよいが、ウェルビーイングが市民にとってわかりにくいかもしれない。	ウェルビーイングについては、国の環境基本計画の最上位の目的に設定されており、重要な概念であることから、素案にて丁寧に説明を行い、市民等にとってわかりやすい計画となるよう努める。
修正案のとおりでよいが、ウェルビーイングの考えを反映している「心豊かに」について、少し表現が漠然としているため、説明が必要だと思う。	

#### 【骨子案の構成等】

意 見	意見に対する事務局の考え方等
基本施策 2 のビジョン中に記載の「少子高齢化等の社会変化に対応した廃棄物や資源物の収集・運搬・処理体制～」について、少子化の問題とのつながりがわかりにくい。	修正案を提示させていただいている。
「ネイチャーポジティブ」等の補足説明の記載の仕方を見直してほしい。	修正案を提示させていただいている。

基本施策 3－1 の名称「豊かな自然と多様な生きものを守り、活かす」と 3－2 の名称「水とみどりを守り、活かす」が重複している印象を受ける。また、「活かす」という表現がわかりにくい。	修正案を提示させていただいている。 なお、「活かす」という表現については、自然の恵みを持続的に利用していく意味を込めている。(生物多様性国家戦略においても、自然の恵みを「活かす」という表現が使われている)
「循環経済」との表記だけでなく「サーキュラーエコノミー」という言葉も記載してほしい。	修正案を提示させていただいている。
骨子案の修正ではないが、中小企業が環境経営に取り組みたいと思えるような施策を立案してもらいたい。	素案に主な施策を掲載予定であり、環境経営の推進に着実に取り組んでいく。

### 【骨子案の指標】

意 見	意見に対する事務局の考え方等
重点施策 1 の二つの指標「日頃から環境に配慮した暮らしを実践している市民の割合」と「環境問題の解決には、市民自らが行動することが必要と強く思う市民の割合」は重複している印象がある。	重点施策 1－1 と 1－2 の項に合わせ、それぞれ「行動変容」と「意識の変容」に着目した指標として設定している。
重点施策 2 の指標は中小企業等に直接聞いたほうがよい。	福岡市基本計画と同様、市民意識により、めざすまちの姿に対するインパクトを測る指標案としている。なお、中小企業の脱炭素化の取組状況等については、経済観光文化局が例年アンケートを実施しており、同アンケート結果を環境審議会にもお示ししながら進捗管理を図っていきたい。
重点施策 2 の指標として、「ISO14001」「エコアクション」等を検討してはどうか。	福岡市基本計画と同様、市民意識により、めざすまちの姿に対するインパクトを測る指標案としている。なお、左記の取得には多額の費用を要するなど負担も大きく、今後の中小企業等への広がりには課題があると考えている。
重点施策 2 の指標「企業が環境に配慮した商品やサービスを提供していると思う市民の割合」はイメージしにくい。	アンケート調査では趣旨説明や具体例を加えるなど、わかりやすい内容となるよう努める。
基本施策 1 の客観指標「温室効果ガス排出量」は一面に過ぎないのではないかと。	福岡市は 2040 年度温室効果ガス排出量実質ゼロのチャレンジ目標を掲げ、脱炭素の取組みを進めていることから、代表的な指標として設定している。なお、その他の指標は部門別計画にて設定・管理していく。
基本施策 2 の客観指標「ごみ処理量」は経済活動が停滞すると減るものであり、人口が減少するとごみも減るため、指標として適切なのか。	福岡市は 2040 年まで人口増加局面と予測されており、施策の推進によりごみを減少させていく必要があることから、代表的な指標として設定している。

基本施策３の客観指標「絶滅危惧種等の確認種数」は「種数」でなく「個体数」にするべきではないか。	例年実施している「自然環境調査」により把握可能な「種数」を指標として設定し、市内の生物多様性に係る状況を測っていく予定としている。
基本施策３の主観指標「豊かな水辺やみどりに親しむことができる空間が整備されていると思う市民の割合」は人工的なものか自然のものか区別がつかないが、自然度の高さにつながるような表現が好ましい。	修正案を提示させていただいている。 なお、自然のものを守り続けること、都市部等に人工的にみどり等を増やしていくことのいずれも重要と考えている。
基本施策４の客観指標「環境基準達成項目数」は「項目数」とすると、大事なところを見落としてしまう恐れがあるのではないか。	修正案を提示させていただいている。
基本施策４の客観指標の項目に「COD」を入れない理由は何か。	国において基準の見直しが検討されていることや、CODの更なる削減は栄養塩不足を進める可能性があることから、対象項目に入れていない。
基本施策４について、「PFAS」など新たな環境問題に対応できるような指標を検討してはどうか。	現時点では環境基準が設定されておらず、現時点での設定は難しいが、引き続き動向を注視し、適切に対応していく。